



2022年8月12日

各 位

会 社 名 株式会社 PKSHA Technology  
 (コード番号 3993 : 東証グロース)  
 代表者名 代表取締役 上野山 勝也  
 問合せ先 執行役員 経営管理本部長 中田 光哉  
 (03-6801-6718)

### 通期業績予想の修正、営業外収益及び法人税等調整額（益）の計上に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2021年11月12日に公表しました2022年9月期通期（2021年10月1日～2022年9月30日）の連結業績予想を修正するとともに、2022年9月期第3四半期連結会計期間（2022年4月1日～2022年6月30日）に営業外収益及び法人税等調整額（益）を計上することとしましたので、下記のとおりお知らせします。

記

#### 1. 当期の連結業績予想数値の修正（2021年10月1日～2022年9月30日）

	売上高	EBITDA	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	一株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 ( A )	12,000	2,360	1,000	940	260	8.52
今回修正予想 ( B )	11,400	2,950	1,500	1,550	800	26.19
増減額 ( B - A )	△600	590	500	610	540	—
増減率 ( % )	△5.0	25.0	50.0	64.9	207.7	—
(参考) 前期連結実績 (2021年9月期)	8,727	1,484	650	572	139	4.58

(注) 前期連結実績には、2021年9月期に買収した株式会社PKSHA Communication（旧社名：株式会社PRAZNA）及び株式会社アシリレラの企業結合に係る暫定的な会計処理の確定に伴う影響を遡及的に反映しております。

## 2. 修正理由

売上高は、AI Research & Solution事業セグメントにおいて、新型コロナウイルス感染症の再拡大の影響により当第3四半期連結会計期間におけるモビリティ事業の売上が低迷しており、第4四半期連結会計期間においても回復の見込みが低いと判断したため、新たな予想を11,400百万円としております。

営業利益は、当第3四半期連結会計期間において償却費負担が100百万円増加した一方で、主に人件費、採用教育費、広告宣伝費が計画を下回った他、全社的な費用抑制により計画値を上回っております。償却費負担の増加要因は、2021年9月期に買収した株式会社PKSHA Communication及び株式会社アンリレラの企業結合に係る暫定的な会計処理の確定（Purchase Price Allocation：取得原価の配分。以下「PPA」）を実施した結果、のれん償却費が減少した一方、新たに顧客関連資産償却費を計上したことによるものです。その結果、新たな予想を1,500百万円としております。

EBITDAは、営業利益の変更理由から、上記償却費負担の増加の影響を除いたものであり、新たな予想を2,950百万円としております。

経常利益は、営業利益の変更理由に加えて、当第3四半期連結会計期間において当社子会社である合同会社PKSHA Technology Capitalがスパークス・グループ株式会社と共同運営するPKSHA SPARXアルゴリズム1号投資事業有限責任組合の一部投資先の売却等により、持分法による投資利益143百万円が計上されたことを受け、新たな予想を1,550百万円としております。

親会社株主に帰属する当期純利益は、経常利益の変更理由に加えて、PPAに伴い計上された繰延税金負債の取り崩しに伴う法人税等調整額（益）136百万円（うち当第3四半期連結累計期間では105百万円）を計上する見込みであることから、新たな予想を800百万円としております。

1株当たり当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益の予想の変更に準じて増加しております。

（注）業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成されたものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上